



保育所の入所施設選考に人工知能（AI）を活用しては

三宅和広 議員

人工知能（AI）を業務に活用する自治体が増えている。今後、本市においても各種業務でAIを活用し市民サービスの向上や業務の改善を図る必要があるのではないだろうか。

保育所等の入所施設選考業務のように手順が明確な

作業は、AIを活用するの

に適した業務である。先行事例として保育所等の入所施設選考業務で実施してみているだろうか。

山本市長 来年度は施設数

が増え、保育所利用調整業務はこれまでより大幅に増大する見込みである。その

ため、事務の見直しと効率化は大きな課題となっている。今後は先進自治体の動向を注視するとともに、AI等の導入による費用対効果について研究していく。

人工知能（AI）とは？

これまで人間にしかできなかった知的な行為を、コンピューターに行わせる技術

保育所の入所施設選考業務は、AI活用に適した業務ではないか。

パーソントリップ調査をどう生かすか

山形広域都市圏パーソントリップ調査の結果が公表された。

この調査では「どんな人が」「いつ」「どこからどこへ」「何の目的で」「どのような交通手段で」「移動したかを調べる。その結果は、交通計画、都市計画、防災、福祉などの分野で状況を分析し、政策の立案に役立て

ることができるとされている。

本市ではこの結果をどのように活用していくのか。また、活用を進める旗振り役が必要ではないか。

山本市長 各課で情報を共有し、市の総合計画や都市計画マスタープランなどの計画立案の基礎資料や各施策の参考資料として活用していきたい。